学校力向上に関する総合実践事業　兼　地域連携研修　兼
地域人材との連携による子どもの読書活動推進事業

令和2年度　江差町立南が丘小学校

公開研究会 研究発表

令和２年１１月２５日（水）

南が丘小学校が考える「学校力」とは

○学校が一体となった組織的な取組が生む教育力

・一人一人の子どもの成長のために目指す目標や方向が同じであり、学校職員同士のつながりができている。

○個々の職員に過度に依存しないチーム力

・バリバリタイプの数名の先生が何でもかんでも引き受けているのではなく、同僚性が発揮され、協働的に実践している。

○学校の自己改革力

・具体的な目標設定をして、実践し、できたかどうかを評価して、考え方や方法をすぐ変えることのできる教員集団である。

学校力向上に関する
総合実践事業

今年度の計画と数値目標

包括的な学校改善に関する内容

1　学校マネジメント

事業内容	具体的な取組
客観的な数値目標の設定と学校評価と連動したマネジメントサイクルの確立	・前期学校評価結果を受けた迅速で実効性のある改善策を掲げての取組と短期での検証を通した学校改善。

→　・学校評価教職員自己評価において、前期と比較し後期のすべての項目において肯定的評価の割合を増やす。

2　落ち着いた学習環境

事業内容	具体的な取組
児童生徒同士の良好な人間関係の構築	・ほっと・QU 等の実施と分析及びソーシャルスキルトレーニング等を計画的に取り入れ良好な人間関係の構築。

→　・学校評価教職員自己評価における「SST 等の計画的実施」肯定的評価 90%以上。

・学校評価教職員自己評価における「生徒指導の機能を意識した教育活動」肯定的評価 90%
以上。

・学校評価外部評価保護者アンケートにおける「いじめや不登校の未然防止」肯定的評価 90%以上。

3　教育課程･指導方法

事業内容	具体的な取組
日常実践に直結する校内研修（ミニ研修含む）の促進	・計画的なテーマ別研修の開催と他校研修会参加における研修内容の全教職員への還流等による日常実践に直結する校内研修の重視。

→　・学校評価教職員自己評価による「テーマ別研修の充実」肯定的評価 90%以上。

・学校評価教職員自己評価「学校内外の研修の充実」肯定的評価 90%以上。

４　働き方改革

事業内容	具体的な取組
事務職員の校務運営の参画	・全校務分掌に事務職員を関わらせることで、専門的な立場による業務の効率化を図る助言等からの働き方改革。

→　・学校評価教職員自己評価「事務職員の学校運営参画」肯定的評価 90%以上。

５　家庭・地域等との連携

事業内容	具体的な取組
家庭と連携を図った学習習慣・生活習慣の改善	・学級、学校通信での情報の共有等、児童の実態やその改善に向けた具体的な取組についての説明責任を果たす等、家庭、地域との連携強化。

→　・学校評価外部評価保護者アンケート「家庭との連携」肯定的評価 90%以上。
・学校評価教職員自己評価「家庭学習を継続する力」肯定的評価 85%以上。

校長等のリーダーシップ等に関する内容

１　教育理念や経営方針の浸透

事業内容	具体的な取組
家庭と連携を図った学習習慣・生活習慣の改善	・学級、学校通信での情報の共有等、児童の実態やその改善に向けた具体的な取組についての説明責任を果たす等、家庭、地域との連携強化。

→　**・学校評価教職員自己評価「重点目標の取組」肯定的評価 90%以上。**
・学校評価外部評価保護者アンケート「重点目標の取組」肯定的評価 90%以上。

２　協働意識の高揚

事業内容	具体的な取組
校務分掌を工夫した組織体制の確立	・若手教員の責任ある役割とそれを育てるミドルの教職員の関わり方の明確化による組織的な取組の重視

→　**・学校評価教職員自己評価「学校の組織的な取組」肯定的評価 90%以上。**

３　コミュニケーション

事業内容	具体的な取組
温かい人間関係を基盤とした職員室づくり	・教え合える職場環境の構築によるコミュニケーションの充実と教職員の資質能力の向上・

→　**・学校評価教職員自己評価「教職員が新しい知識やスキルを学ぶ環境づくり」肯定的評価 90%以上。**

４　人材育成

事業内容	具体的な取組
学校職員評価制度（業績評価及び能力評価）の効果的な活用	・個々の役割を明確にした目標設定の重要性とその目標達成のためのメンター研修の効率的な活用のための組織づくり。

→　**・学校評価教職員自己評価「メンター研修の充実」肯定的評価 85%以上。**

具体的な取組の紹介

ホームページで学校の様子を紹介

ソーシャルスキルトレーニングの取組

フレンズ・サポート学習指導案（5～6年）

第２回テーマ　「問題を解決しよう（上手な話し方）」

１．目標

自分の考えたことや感じたことをアサーティブなコミュニケーションを使って友だちに伝える体験を通じて、アサーティブなコミュニケーションの重要性を体験的に学ぶ。

２．本時の流れ

	児童の活動	教師のはたらきかけ・支援	留意点
導入１（３分）	本時の学習の流れを知る。 約束を守るよう意識する。	・みなさんこんにちは。「フレンズ・サポート学習」の２回目です。 ・これまで、『アサーティブ』という、「自分を大切にすると同時に、相手のことを大切にするコミュニケーションをする」学習もしました。 ・今回は、友だちに対して考えたことや感じたことをアサーティブなコミュニケーションで相手に伝える自己主張トレーニングです。 ・いつものように学習の最後には、気付いたことやよかったことを振り返ります。 ・今日も２つの約束を守って学習しましょう。 ①相手の話は最後までよく聞きます。 ②言ったことを否定しません。	※開始時から班ごとに座り、流れを確認する。
導入２（７分）アイスブレイク	「だんだん○○になるボール」のルールを知り、活動する。	・では、最初の活動「だんだん○○になるボール」を行います。（別紙参照） ① 心と体のウォーミングアップです。まずは、各班で１グループで円になります。 （すすめ方の説明）1分 ② 実際の活動。5分 ③ 今日も最後まで頑張りましょうね。全員の頑張りに拍手しましょう。自分の席に戻ってください。1分	※全員で１つの円をつくる。 ※楽しい活動をすることで会場のよい雰囲気を作る。

日常の実践に直結するテーマ別研修の実施

昨年度実施した「フランチャイズチェーンのあり方 ～会社オーナーの考え方～」での参加者アンケートより

経営の仕組みや、発送までの期間、店舗数など色々な情報を知ることができました！
また、将来職業につく時に、生徒が「コミュニケーション力」と「社会性」をしっかり身につけられているように話していきたいと思います！

- 自由な発想を持って仕事に取り組むことは悪いことではないが、あくまで組織の一員であることは忘れてはいけないということ。
- 何か物事を決めるにも「やってみて」もいいが、どのような効果、採算をとれる、得れるのか考えて行うこと。

「近くて便利」が心理的な距離のことも含めていることを知り、地域に根づいたお店を目指していることを学びました。学校でも地域とのかかわりが大切だと言われるので、これから意識していこうと思います。

研修等の全教職員の共有のために

「たば風通信」の発行

江差町立南が丘小学校　　研究部通信

南小たば風通信　２０１８

平成３０年１０月１０日（水）　第２３号

岩見沢市立南小学校公開研究会　参加レポート

１．はじめに

９月２８日（金）岩見沢市立南小学校で開催された研究大会（参加者１５０人）に参加してきました。当日は，前期最終日であり，皆様にたくさんのご迷惑をお掛けしてしまい申し訳ございませんでした。お陰様で，多くのことを吸収することができました。感謝いたします。

南小学校の研究テーマは**「主体性・協働性を活かし，深い学びを実践する子どもの育成」～教えて考えさせる授業づくりを通して～**でした。この学校は，学校力向上に関する総合実践事業指定校であり，「教えて考えさせる授業（以下ＯＫＪ）」の推進校であす。そのことから，本校以外で「学校力×ＯＫＪを展開している学校を見てみたい！」と私がわがままを言って参加させていただきました。

以下，研究大会に参加して勉強になったところを紹介いたします。ＯＫＪ２年目の未熟者が見てきたものを記したレポートですので，今さら的な所が幾つかあるかもしれませんが，「理解確認」のつもりでお読みいただければと思います。

２．ここがスゴい！～「南小」の組織，先生方，そして子どもたち～

岩見沢南小ということで，南小…。「南小の～」という言葉を何度も聞きながら違和感なく１日を過ごさせていただきました。その南小のすごかったところを紹介させていただきます。

（１）昨年度全国学力学習状況調査の結果について（詳しくは，研究概要・資料集をご覧ください。）

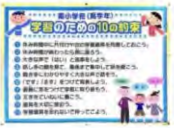
全国の平均（１００）と比べて南小は，国語Ａ（１０８）国語Ｂ（１０９）算数Ａ（１０９）算数Ｂ（１１５）として，平均を上回っている（過去３年間の結果を見ても高い数値が出ている）。

（２）ＯＫＪや学校力継続としての継承意識の高さ

今年度の校内研１回目の授業が４月９日に行われたそうです。理由は，赴任者や初任者にＯＫＪの授業や研究について理解してもらえるように設定しているとのことでした。

初任者に対しても毎週金曜日に学習会を設けて学級経営や指導方法，学級通信の書き方に至るまで手厚くフォローしているとのことでした。

（３）スタンダードの徹底



南小は，１０の約束（右図）を設けていますが，その中でも姿勢については驚かされました。「立腰」を全クラスで掲示し，正しい姿勢が取れていない児童を探す方が大変なくらい終始よい姿勢を保持していました。授業中も乱れている子どもにはすぐに姿勢を正すように指導していました。

その他にも，大きな声で挨拶をしたり，話し手の方を見て発表を聞いたりしている様子も立派でした。廊下ですれ違う子どもたちも笑顔で元気にあいさつしてくれました。授業開始や終了の挨拶は，大きな声であいさつしており，部活のような活気があふれていました。（大きな声を出せばよいのか？ということはありますが，嫌な感じは受けませんでした。）本校の子どもたちも立派なあいさつですが，それ以上と感じました。

３．公開授業①５年竹組　　立場を変えて書きかえよう「大造じいさんとガン」

国語科もＯＫＪで授業されているということです。本時は，山場（クライマックス場面）を見つけるという時間でした。工夫されていた所を紹介します。詳しい流れは指導案をご覧ください。

★分かる授業化

①山場という言葉と意味を教える。

②大造じいさんの台詞や心情が書かれたカードを黒板に貼りながら、大造じいさんの気持ちレベルを全体確認する。（道徳の心情メーターみたいでした：下記写真参照）

→自力解決前に、前時までに押さえた大造じいさんの心情を表すキーとなるセリフや表現を提示したことで、内容を思い出させると共に、これから山場を見つけさせる上でどこの場面なのか、どのカードに近いのか？挙手させ、想起させて「自分自身で見つけられるように」アシストしていた。

③その後で、教科書に、山場だと思うところ３カ所に小さい付箋を貼らせる。

④その３つの中で一番、山場だと思うところを選ばせる。

⑤選んだあとに、理由をつけて文章化させるが，教科書の例文をみんなで確認をして作業内容を押さえてから作業に入らせるようにする。

⑥作業をさせながら教師は、板書に教科書の見本例文で示されている型を書き、作業内容が何か分かるように残していた(時間の削減：下記写真参照)。その後、個別支援にまわっていた。

※「ここが大事」については，系統性をもたせ、全学年で意図的に指導する際に活用していることが研究発表で明らかになり納得しました。

補足：前時までの所で，教科書内に大造じいさんが主語となる文は赤の直線で，ガンが主語になる文は青の直線が引かれていた。情景描写は四角く囲ませていた。

★主体性を育む工夫①～授業に向かわせる環境整備～

・集中力を高めるための「立腰」を徹底していると話していた。(授業中も立腰ができていなかったらすかさず指導していた)
・教科書の持ち方。
・話し手に身体を向けること。
・机上に出しているもの、置き場所。
それらスタンダードを徹底して落ち着いた授業環境と分かる授業によって、みんなを授業に向かわせている，主体性を支えている様子だった。
・考えが思いつかない児童に先生は回って指導していた。
・単元の指導計画が子どもたちの字で書かれていたところにも主体的な要素が隠れていた。本校でもピクトグラムを子どもたちが意識できるようになることで，主体性を高められると以前に話していたことに近い？
・ＯＫＪ探求型は，児童に課題を見出させて計画させることもあるので、その意識からか…

★主体性を育む工夫②～子ども達の様子～

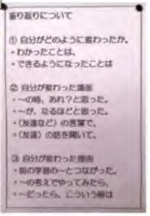
◎グループ交流の意義を一人ひとりが理解し，対話することを楽しんでいる様子だった。
・聞き手は，もちろん集中していた。話し手に身体を向けて聞き入る様子が多々あった。
・ふりかえりでは，書けた人から，ギャラリーウォークで友だちのふりかえりを交流。
「山場としているところが違うところに気づき、みんなの山場をもっと交流したかった。」や
「同じ山場でも、理由(考え方)が違うことに対して「たしかに」「なるほど」と納得できた。」など、

普段から友だちの考えをしっかりと聞いて、自分の学習に生かしている様子がとても伝わってきた。
→友だちの考えを知ること，対話することのよさを毎時間の授業の中で味わっている様子だった。
そのように交流したり協働的に学習したりすることのよさや意義を理解することが主体性を生むきっかけとなっているように感じた。

↑立腰×教科書の持ち方

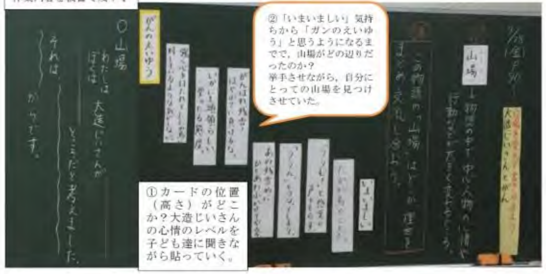
児童作成の単元計画↓

振り返りのポイント掲示↓



整理されたノートと机上↓

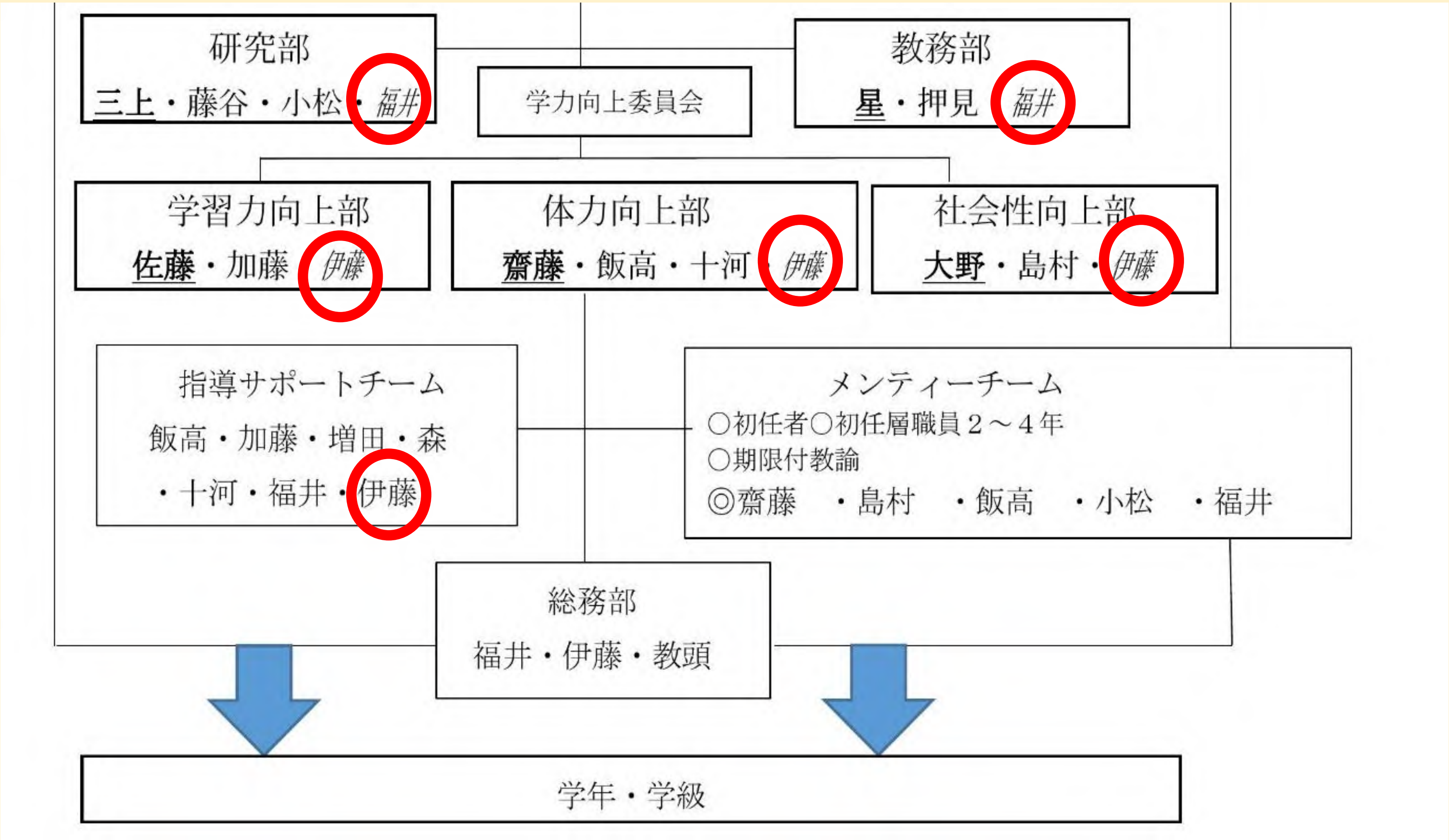
作業内容を板書で残す↓



②「いまいましい」気持ちから「ガンのえいゆう」と思うようになるまでで，山場がどの辺りだったのか？挙手させながら，自分にとっての山場を見つけさせていた。

①カードの位置（高さ）がどこか？大造じいさんの心情のレベルを子ども達に聞きながら貼っていく。

事務職員の学校運営への積極的な参画



みんなで考える会議（MKK）

「目標達成のために組織として、問題意識をどれだけもつかという点がカリキュラム・マネジメントの基盤となる」という考えのもと

【南が丘小学校の強み】

- 研究部の強いリーダーシップ
- ミッション加配
- 地域人材の活用
  ・主幹教諭、町教委宮原さんが窓口となる
- 手厚い研修旅費
- 温かいベテランの存在
- 手厚いＴＴ体制
- 生徒指導事案の少なさ
- 課題を先延ばしにしない評価のあり方
- 実務能力の高い教職員の存在
- 運営ミーティングの存在
- 少年団加入率の高さ男子 58%
- ホール（景色・広さ）
- 祭典への参加と地域との関係性
- 学校に対するクレームの少なさ

【南が丘小学校の弱み】

- ミッション加配の個々の先生の受け止め方
- ＴＴの内容の充実
- 特別支援教育のシステムや情報の共有等
- どさん子元気アップに向けた継続的な取組
- 家庭との連携（なかなか成果が見えてこないことのもどかしさ）
- 重点目標達成に向けたゴールの具体会及び達成に向けた手だて
- ＯＫＪのとらえ方
- 旧校舎の施設（雨漏り）
- 教科授業の交流の少なさ
- 学校力における授業改善理解
- 人材育成（メンター方式の見直し）
- 朝学習、チャレンジタイムの徹底
- 全校集会、校内の約束の指導が徹底しきれない
- 優しさと危機意識の欠如の同居
- 目に見える成果が求められる
- 職員室文化伝承の難しさ

全教職員による、「強み」を更なる「強み」へ、「弱み」を「強み」に変える話し合い（学校評価会議）

課題に対する具体案の提示

（算数科の課題・宿題の内容等の課題）

課題 → 指導部からの提案 → 全体での取組の確認

朝学習、宿題、家庭学習の取り組みについて

2020.4.15
学習力向上部

【目的】
　過去２年半、国語の標準学力検査ＣＲＴの結果からも「読むこと」が高学年で落ち込んでいることがわかったため、低・中学年で国語科における文章読み取り活動の充実、高学年での**基礎学力の確実な定着を図ること**をねらいとして、朝学習で各学年共通の国語プリントに取り組んできた。
　今年度は、昨年度の児童の様子、保護者アンケート、校内評価で家庭での学習の取り組み方に課題があったことから、下記の２点を目標に、朝学習や宿題・家庭学習の充実を図りたい。

①学習した内容を確実に身に付ける
⇒「朝学習」、「授業」、「宿題や家庭学習」の繋がりの充実

朝学習で、前日の宿題の答えの確認や解説をすることで、既習内容を理解したうえで授業に臨むことができ、思考を整理した状態で授業に臨めるのではないか。

②意欲的に学習に励んでいく習慣付け

宿題でその日に学習した内容に取り組むことで、家庭学習でも**自分で考えて**類似した内容や発展的な内容の家庭学習に取り組みやすくなるのではないか。

【時間】
〇8時１５分～8時３０分　（１５分間）
〇チャレンジタイムの年間予定（別紙参照）の日は、朝読書と朝学習の時間を使って漢字コンクールや計算コンクールに取り組む予定です。

【曜日と内容】

曜　日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内　容	宿題や家庭学習の解答、解説（毎日） 必要に応じた学級裁量の内容				

【宿題や朝学習で使用するプリント集】
　ファイルに綴じて全員に渡します。学級で使いやすい方法（授業、宿題、家庭学習、朝学習など）で活用して下さい。先生方が、毎日、宿題を印刷する労力も軽減化できればと考えています。
・国語（清風堂書店　「国語読解習熟プリント」活用）
・算数（喜楽研の算数プリント３種…標準編、習熟編、文章問題編を活用）

ＰＤＦはコチラ！
› PC › New校務用フォルダ (¥¥ls210d513) (Z:) › 01_分掌 › 04_学習力向上部

※その日の宿題のページを児童に伝え、実態に応じて付箋などをつけさせてください。
※授業や家庭学習でどんどん進めても良いです。
　宿題のページを終えている場合は、「宿題の代わりにどのような学習をすればよいか」を考えていけるよう促すなど、子ども達の自主性を育むよう寄り添って指導して下さい。
※宿題で、国語、算数プリント集で不足する内容は、必要に応じて各担任で準備をお願いします。（国語・算数の他の内容や他教科など）
※チャレンジテスト、
※特支学級は実態に応じて取り組んで下さい。（自立活動や実態に応じた内容など）
※檜山ジプンｄｅ勉強（国、算、社、理、英）を活用したい場合は学習力向上部まで。

【担当】朝読書と同じです。

１年	大野・加藤・森	４年	三上
２年・３年	押見・飯高・増田	すずらん	星
はまなす	齋藤	５年	島村
かもめ	小松	６年	藤谷
		しおかぜ	佐藤

【配布・保管方法】
手順　下記のものは例です。学級、児童の実態に応じて柔軟に活用して下さい。

〇宿題用のリングファイル　１冊…毎日、学校に持ってくる。授業等でも活用可。
〇復習用の紙ファイル　　　２冊…国語用・算数用を各自に配り、家庭で保管。
　　　　　　　　　　　　　　　　家庭学習等で活用。

①宿題用リングファイルに国語プリント集綴り、算数２単元分のプリント集を綴じて配布。
②朝学習で解答、解説。
　※一斉で、グループ内で確認、グループで教え合いなど。
　　グループで教え合い活動等をする日は、担任が家庭学習ノートを確認できる時間を生み出せればと考えています。
　※解答集は学級に１部渡します。必要に応じてコピーして活用して下さい。

③やり終えたプリントを家庭で保管している保管用の紙ファイルに入れ替えて綴じる。
（復習などで活用する。）
④算数は、１単元終えたら、次の単元のプリント集を渡す。（職員室の棚にあります）
　国語は、数回に分けてプリント集を渡す。
　　※算数は、常に２単元分程度、宿題用リングファイルに綴じた状態になります。

【検証】
・児童の苦手としている内容や単元等の傾向をつかむ。
・実態等の把握を通して、個別指導、複数指導等、指導体制等に役立てて下さい。

◎取り組んでいるうちに取組方法等課題がある場合は、改善していきます。
　→課題等がある場合は、学習力向上部までお願いします。

【その他】
検討事項　・放課後に補充的な学習を行う場合は？

今年度の南が丘小学校の
校内研究について

本校の課題

「児童アンケート」「CRT経年比較」
「全国学力学習状況調査・児童質問紙」等より

○主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善
○児童の課題をより明確にし組み立てる
学習過程の組織的な取組（算数科）
○家庭学習の取組

研究主題

「 単元を見通し、子どもたちが
『わかる』『できる』が実感できる
算数科の授業づくりを目指して」
～つけたい力の明確化と子どもたちが主体となる授業～

研究仮説

〇１単位時間の授業で「つけたい力」を明確にして指導者が適切に関わることで，子どもたちが主体的に学び、より確かな学力を身につけることができる。

【課題解決に向けた具体的な取組】

〇ピクトグラムを活用した単元を見通した授業づくり
〇数学的な見方・考え方を働かせた授業づくり
〇学習意欲が増す教材教具の工夫（具体物・ICT活用）
〇一単位時間における「教えること」「考えさせること」の明確化
〇対話における指導者の適切な発問や資料提示の工夫
〇知識をもとにした応用・発展的な課題に協働的に取り組む
「深化問題の充実」
〇本時の目標に準じた児童の学習の振り返りの工夫

【指導者の適切な関わり】

〇教えること, 考えさせること, まとめることの明確化
〇子どもの姿や発言を丁寧に見る, 聞く
〇子どもの思いや考えを理解する
〇本時のねらいとの関係を考える
〇どのように関わるかを決める
〇わかりやすく板書したり, 端的に発問したりする

地域人材との連携による子どもの読書活動推進事業の一環としての取組

図書室へ算数コーナーを設置（他の教科も同様に整備）し、授業やその他の時間で活用できるにしている。

日常の読書活動及び家読、授業等でも活用できる年間各学級３００冊、学校全体で１８００冊の本を江差町図書館から借り入れ。（学級PTAとの連携）

本校の算数科における授業スタイルについて

本校が平成２６年度から算数科において取り組んできた「教えて考えさせる授業」。

ステップ	算数	内容
予　習		☆ 読む。（低学年） ☆ 読んでわからないところに付箋紙を貼る。（線や印をつける） ☆ 問題を解いてみる。
教える	教師の説明 １０~１５分	☆ 教科書・具体物や ICT の活用。 ☆ 言葉を精選し、子どもとのやりとりを大切にする。 ☆ 挙手による確認。
考えさせる	理解確認① ５分	☆ 数字を変えた問題。 ☆ ペアでの説明。 ☆ みんなで確認。
	理解確認② ５分	☆ 問題を変える。（難易度は同じ） ☆ ペアでの説明。 ☆ みんなで確認。
	理解深化 １５分	☆ 応用・発展問題。 ☆ 間違い探しの問題。 ☆ 理解を深める問題。（説明を繰り返す） ☆ 生活と関りがある問題。 ☆ ペアやグループで考える。→発表
	自己評価 ５分	☆ わかったこと・わからなかったこと・大事だと思ったことを書く。 ☆ 交流の仕方の工夫。

①

過　程	内　容
めあて 「教える」 ポイント or まとめ	教師の説明
「考えさせる」 1	理解確認 ①
「考えさせる」 2 まとめ	理解確認 ②
「考えさせる」 3	自己評価 （振り返り）

②

過　程	内　容
めあて 「教える」 ポイント or まとめ	教師の説明
「考えさせる」 1	理解確認 ①
「考えさせる」 2 まとめ	理解深化
「考えさせる」 3	自己評価 （振り返り）

③

過　程	内　容
めあて 「教える」 ポイント or まとめ	教師の説明
「考えさせる」 1	確かめる
「考えさせる」 2 まとめ	理解深化
「考えさせる」 3	自己評価 （振り返り）

上記のような「教えて考えさせる授業」の学習過程をもとに築き上げた南が丘小学校独自の学習過程や問題解決型学習を通して、本時の目標に迫っている。

本日の公開授業について

３年生：「分数を使った大きさの表し方を調べよう」

　知識を身に付ける段階、理解を確認する段階、知識を活用する段階を通して、本時の目標達成に迫る授業。

６年生：「順序よく整理して調べよう」

　確認を複数回行うことで得た知識をもとに深化問題に児童が主体的に関わり、本時の目標に迫る活用型の授業。

本日の公開授業、
皆様からのたくさんの意見を
お願いいたします。